

男女共同参画NEWS

森わさ賞募集

候補者募集 第8回 森わさ賞



学校法人神戸学院は2022年に創立110周年を迎えました。そして本年度、神戸学院大学は創立60周年の節目となります。

本法人の原点である私立森裁縫女学校の創立(1912年)理念は、「艱難(かんなん)にくじけず自活している女性」と「真に社会に役立つ人間」の育成にありました。

神戸学院大学では、校祖森わさ先生の志を継承し、本学の建学の精神「真理愛好・個性尊重」に基づき、研究、教育又は社会における活動において優れた功績をあげた女性の教職員・卒業生・修了生を表彰します。

- ・ 本学の専任教職員もしくは卒業生・修了生で、研究、教育又は社会における活動のいずれかにおける功績が認められる女性の方
- ・ 自薦/他薦*、年齢は問いません
- ・ 原則として1名を表彰します

*推薦者は本学専任教職員および卒業生・修了生に限りません

表彰 賞状および副賞(記念品)の授与

応募 男女共同参画推進室HPから推薦書をダウンロードのうえ、PDF ファイルにしてメールでお申し込みください

〆切 2026年11月30日(月)15:00
男女共同参画推進室 danjokyodo@j.kobegakuin.ac.jp



開催案内

男女共同参画 教職員研修

ハイブリッド
開催

日時 2026.11.5 (木) 13:45~15:15

場所 ポートアイランド第1キャンパス D 102 講義室
有瀬キャンパス 115 A 講義室 (オンライン中継)
オンライン参加 (Zoom)

対象 役職者 + 希望する教職員

もっとやさしいまち明石へ ～明石市の取り組みと市長の思い～

講演 明石市長 丸谷 聡子氏



誰もが尊重され、その力を発揮できる組織をつくるために、制度を整えることに加えて、何が必要なのでしょう。明石市のジェンダー平等に向けた取り組みと市長自身の経験から、組織の文化や意識を変えるための視点を考えます。

参加申し込み



実施報告

男女共同参画フォーラム

6/23 (火)
11:15-12:45
KAC 941

国の男女共同参画週間に合わせて、VAL21(兵庫県経営者協会女性部会)と協働し、「選択肢のその先へ。一経験から考えるキャリアと働き方」をテーマに「男女共同参画週間記念フォーラム」を開催しました。

後日のオンデマンドと合わせて、約500人の学生が参加しました。

兵庫県経営者協会常務理事で事務局長兼人材育成部長の長尾泰明さんがVAL21は「女性活躍を通じた県内企業の活性化、働く女性の意識・地位向上、県内で働く女性につながる場の提供などを目的とした団体」と説明され、行政および企業から3人のパネリストにご登壇いただきました。

最初に、神戸市地域協働局男女共同参画課係長の佐野暢子さんが公務員の仕事の魅力について「異動が多くて幅広いキャリアや人生経験を積める」などを挙げ、「縁の下の方持ちで、迷っている人の背中をちょっと押すような仕事」だと語られました。

次に、株式会社千代田精機製造部生産管理課生産管理グループ主任の塚田梨佳さんは、就職してから現在までの自身のキャリアとモチベーションの高さをグラフで視覚化されました。同社で働く自身を支える軸として、(職場での)改善の自由度があり、人とのつながりを保ち、多様なキャリア観を持てることだとお話されました。

最後に、川崎重工業株式会社人事本部組織風土改革・コンプライアンス総括部人財開発部組織風土改革推進課の中井梨恵さんは、経済的・精神的な自立を実感する一方、子育てと仕事の両立には制度や周囲のサポートが不可欠であり、それらを活用してライフステージに応じた働き方を選択し、キャリアを継続したと語られました。



報告する(右から)佐野暢子さん、塚田梨佳さん、中井梨恵さん

実施報告

活躍する女性セミナー

「働く」と「生きる」を
これから考えるあなたへ

経営学部と共催して「活躍する女性セミナー」を開催し、リクルートワークス研究所の萩原牧子 調査設計・解析センター長をお迎えして「データから紐解く女性の『働く』の現在地とキャリア形成」と題してご講演いただきました。

当日は、学生と教職員合わせて約130人が参加しました。

女性の就労について、第1子出産後の離職率は大幅に低下し、未就学児を持つ女性の雇用者・正社員としての就業割合が増加しており、夫婦ともに正社員である共働き世帯が増加傾向にある一方で、家事育児時間は男性と比較して女性の方が圧倒的に長く、未だに偏りがあること、また、係長・主任級の女性割合は増加傾向であるが、部長・課長級は足踏み状態であることについてデータをもとに述べられました。

部長・課長の女性割合が足踏み状態の一因として、女性は出産・育児期と、企業で中核として活躍すべき時期が重なることで、成長機会を逃し、管理職登用から漏れる人がいることや、際限のない働き方(転勤・長期間勤務)を優遇するシステムが残存しており、一度キャリアから外れると戻りにくい構造があると指摘されました。

それらの解決方法について、「ライフイベントの前に早回しで経験を積む」や「ライフイベントを機に離職しない」「学び続ける習慣を持つ」「企業選びの際は公開情報を参考にする」の4点を挙げ、「働き始めてから後悔しないように、今知っておいてほしい」と学生にご助言をいただきました。



実施報告

男女共同参画 ランチタイム ミーティング

7/13 (月)
12:00-13:15

7月13日、男女共同参画推進室では、介護をテーマとしたランチミーティングを開催しました。家族の介護を経験した教職員から、認知症の兆候に気づいた経緯や介護認定、仕事との両立について、実体験を交えてお話を聞きました。



介護は突然始まることもあり、限られた時間のなかで介護認定の手続きや、その後の生活体制を整える必要があることなど、実際の介護経験が語られました。そうした状況で日々の介護を支える手段として、デイサービスや訪問看護、介護用品のレンタル、住宅改修など、介護保険を活用した支援についても紹介されました。

また、介護が続くなかでは、嚥下機能の低下によって誤嚥のリスクが高まり、食事の見守りや嚥下訓練など、新たな対応が必要になることもあると紹介されました。その一方で、仕事は続き、急な受診や入院への対応と、試験や入試など代わりのきかない業務との調整に苦労した経験も共有されました。

介護は終わりが見えにくく、介護者自身の心身にも大きな負担がかかります。自身の健康を後回しにせず、「できる範囲で十分」と考え、周囲や外部サービスの力を借りることの大切さも伝えられました。

質疑応答では、施設入所のタイミングやショートステイの利用などについて意見が交わされました。また、経験や工夫を共有できる「介護知恵袋」のようなプラットフォームがあればよいとの声もあり、介護を個人や家庭だけで抱え込まないための場の必要性を考える機会となりました。

実施報告

活躍する女性セミナー

「働く」と「生きる」を
これから考えるあなたへ

7/17 (金)
15:30-17:00
KPC1 B103講義室

経営学部と共催して「活躍する女性セミナー」を開催し、兵庫県企画部次長の飯塚知香子さんをお迎えして、「『どんな地域で、どのように生きたいか』を仕事にする」と題してご講演いただきました。

当日は、学生と教職員合わせて約130人が参加しました。



飯塚さんは、阪神・淡路大震災から3カ月後の1995年4月に兵庫県庁に入庁されました。「いろいろな仕事がやれそうだな」という思いもあり、公務員に絞って就職の準備をされたそうです。

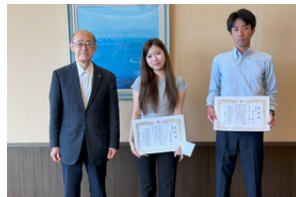
まず、公務員の「国と県、市、町」の役割分担について説明されました。特に、南海トラフ地震への県としての対策は「国の情報に基づき、兵庫県内での被害予測を行う。津波対策としては防潮堤などのインフラ整備などがある」と述べられました。

次に、県職員の仕事について紹介されました。県職員は一般行政部門で約6000人おり、合言葉は「県民のために」です。県職員の仕事の基本は「政策立案」で、中でも東京一極集中を是正し、「地域創生」を進めることが求められる。そのためには、人口減少の現実に向き合い、誰もが住み慣れた土地で望む生き方がかなう地域をつくることを考え、「生活圏」に必要なもの（交通インフラ、医療施設、買い物の場所など）の供給力不足を解決する必要があると県政の方向性を示されました。

県職員の仕事の魅力について、「安心して仕事ができること」や「海外出張のチャンスもあること」「昇進に男女差がないところ」などを挙げられました。

2026年度男女共同参画キャッチフレーズ表彰式

本学では、男女共同参画社会基本法の目的や理念について理解を深めることを目的として、2020年度より毎年度、立場や性別や年齢にかかわらず、すべての人が自分らしく、充実した人生を実現することのできる「神戸学院大学 男女共同参画キャッチフレーズ」を募集しています。



春藤久人学長事務取扱と受賞者

2026年度は、全458作品の応募の中から選考委員会によって次の3作品が選ばれ、8月3日に表彰式を行いました。

【最優秀賞】

- ・「“らしくない”が、未来を変える。」小島芽依さん（グローバル・コミュニケーション学部1年次生）

【優秀賞】

- ・「わたしのままで、ちゃんと主役」印田冴恵さん（法学部2年次生）
- ・「個々が輝く、ここで輝く（ここがかがやく、ここでかがやく）」沖中武さん（心理学部 非常勤講師）

春藤久人学長事務取扱は、「最優秀賞の作品は、固定的な性別役割意識にとらわれない発想を、『らしくない』という印象的な言葉で表現し、多様性を尊重する社会の実現に向けた力強いメッセージを感じました。また、優秀賞の作品は、一人ひとりの個性や能力が尊重され、それぞれが活躍できる社会の実現を端的に表現した、前向きな作品です。受賞した3作品はいずれも、誰もが主役として輝ける社会の実現を、親しみやすい言葉を用いて未来への希望を込めて表現している点が高く評価されました」と講評し、受賞者にお祝いの言葉を贈られました。

実施報告

ダイバーシティ勉強会 第5弾

9/7 (月)
15:00-17:00

ダイバーシティ勉強会として総合リハビリテーション学部の塚原正志講師が、9月7日に有瀬キャンパス15号館にある日常生活学実習室で「介護ワークショップ」を開催し、学生と教職員合わせて13人が参加しました。



内容は講義と実践に分かれ、前半の講義では塚原講師が、「認知症は本人ではなく周りが困る病気」であり、「理解することは、本人だけでなく介護する人を守る」ことにつながると説明しました。また周囲が対応を変えることで「防げる『死』と避けられる『苦』がある」と述べられました。

続いて、認知症という疾患（病気）への理解を深めるため、認知症のタイプについて解説されました。また早期から対応すること、認知症の発症を遅らせたり、進行を穏やかにすることができると説明しました。介護を楽にする3つの工夫として「接し方」「環境・道具」「支える輪」を挙げ、「本人を変える」のではなく、周囲の接し方や環境を工夫することが大切だと述べられました。さらに、認知症の予防には脳を使う活動や人との交流が有効であると説明し、実際に皆で脳トレを体験しました。

後半の実践では、実際に介護を行う際の重心の移動や体位変換について学びました。参加者は2人1組となり、実際に椅子から椅子への移乗や、介護者の身体にあまり負担をかけずに体位を変更する方法を体験しました。塚原講師は「もう少し自分の体重で引き揚げた方が簡単だよ」など一人ひとりにアドバイスされました。参加者からは「床に座った状態から椅子に座らせるにはどうすればよいか」等の実践的な質問もあり、その都度塚原講師は実演を交えて丁寧に指導されました。

参加者らは「自分の両親も、私自身も、他人事ではないとしみじみ感じました」「重心コントロールは、非常にためになりました。少し練習してみようと思っています」等の感想が寄せられました。

ご意見をお寄せ
ください



職場のこと、育児・介護との両立のこと、男女共同参画にかかわるなんでも、日々感じておられることについてぜひご意見をお聞かせください。今後の取り組みの参考にさせていただきます。匿名でも送信していただけます。

神戸学院大学 男女共同参画推進室
ポートアイランド第1キャンパス D号館4階
住所 神戸市中央区港島1丁目1番地3
TEL 078-571-0927 (直通)
mail danjokyodo@j.kobegakuin.ac.jp

